

津久井総合事務所を中心とした公共施設のあり方を考える 市民対話ワークショップNEWS 第4号（最終号）



●第4回市民ワークショップを開催しました

12月18日（土）に第4回ワークショップ（最終回）を開催し、19名の方にご参加いただきました。最終回は、「提案のまとめ」をテーマに、第3回のグループワークで考えたことを実現するために必要な取組について、3つの視点から検討しました。

また、参加者全員から、本ワークショップに参加してみて感じたことを発表し、皆さんの想いを共有しました。

最後にファシリテーターから全体のまとめ、本村市長によるあいさつ、市から今後の予定をお知らせし、閉会となりました。

1. あいさつ

- ・ ファシリテーターのあいさつ
- ・ これまでの振り返り

2. グループワーク

- ・ グループごとでの第3回の振り返り
- ・ 総合事務所周辺を中心とした新しい公共施設のあり方のまとめ

3. 学生からの発表

- ・ 卒業制作中間発表（真下さん）

4. 発表・意見交換

- ・ グループごとの発表

5. 参加者全員からひとこと

- ・ ワークショップに参加してみて感じたこと

6. 本ワークショップのまとめ

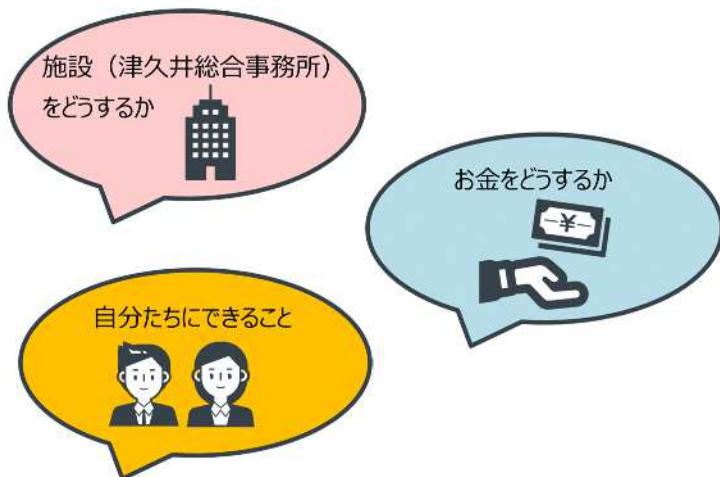
- ・ ファシリテーターによるワークショップ全体のまとめ

7. 市からのあいさつと今後に向けて

- ・ 市からのあいさつ
- ・ 今後の予定

●グループワーク

実現のために必要な取組として、「施設（津久井総合事務所）をどうするか」「お金をどうするか」「自分たちにできること」の3つの視点から検討しました。



芝浦工業大学学生からの発表（真下あいさんの卒業制作中間発表）

- ・ 「公共性を育む」というテーマで卒業設計を行っている。
- ・ 津久井湖から公共施設が集中しているエリアまでを一本の軸を通すように全体の建物を配置し、実際に歩くことで地域の歴史や時間の流れを感じることができるよう設計した。
- ・ 国道の北側は、「過去・歴史」ゾーンとし、自然に触れ、歴史を理解し、津久井の魅力を最大限感じることができるよう、津久井湖の展望デッキ、津久井湖資料館、尾崎号堂展示館などを配置。
- ・ 国道の南側は、「未来・再編」ゾーンとし、里山の公共施設群をイメージして既存の公共施設を再編。再編された公共施設群では、地域の人たちが生き活きと生活し、用事がなくても人が集まり、誰でも楽しむことができる。そして、新しいコミュニティが生まれて世代を超えた輪が広がっていく。
- ・ 引き続き、津久井が持つ地域らしさや魅力がより感じられ、人が集まるコミュニティの中心となるような設計を行っていきたい。



上りバス停から公共施設と中野山を見る



芝生広場から公共施設を見る

～真下さんが描いたイメージパース～

●グループワーク成果の概要（一部抜粋）

～視点①施設（津久井総合事務所）をどうするか～

（グループ）

項目	意見・アイデア
建物 （配置・機能・ デザイン等）	<ul style="list-style-type: none"> 世代間の交流ができる機能、行政の手続き等ができる機能を1つの施設にまとめる（A） 人口減が考えられるのでコンパクトにするのが良い（B） 今後数十年使用する施設のため、用途の変化に対応できる間取り等にする（C） カフェ、食事のできる場所が欲しい（A・C） 広々と明るく図書館などの少しゆっくりできるスペースも（C） 津久井産材を使った建物。水とみどりをイメージできる建物（C）
バリアフリー・ ユニバーサル デザイン	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーの建物にする（A・B・C） ベビーカーや車いすでも入りやすい明るい雰囲気（A） 分かりやすい案内やサインで誰もが利用しやすく（A・B・C）
駐車場・交通	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場を広くする（A・B・C）
環境・エネルギー・ 防災	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電を設置する。災害時、電気を使える。（A） 土砂災害に強い施設（B） 省エネ使用の建物（C）
その他	<ul style="list-style-type: none"> 総合事務所周辺的环境整備（A）

～視点②お金をどうするか～

（グループ）

項目	意見・アイデア	
増やす・稼ぐ	資産活用	<ul style="list-style-type: none"> 土地を売る、使わない所を売る（B）
	貸付け・ 有料化	<ul style="list-style-type: none"> 小さなコンビニを入れ場所代をもらう（A） 施設の利用条件の見直し、有料化、利用率を上げる（C）
	寄付等	<ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディング（A・B・C）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 国・県の補助金を有効利用する（A・B）
減らす	建設 コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 建物を統合し、管理費を下げる。太陽光発電で電気料金を下げる（A） 施設を借りる。施設を合同して作る（B）
	運営コスト 削減	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費の削減（水を利用した空調システム、照明LED、自然光入る建物、グリーンカーテン、屋上グリーンルーフ、太陽光発電、風の通る建物等）（C） ペーパーレスの仕組みを考える（C）

～視点③自分たちにできること～

（グループ）

項目	意見・アイデア
施設を使う	<ul style="list-style-type: none"> 休日に朝市を開き、地元の物産など販売する（A） 部活動の発表など（吹奏楽の発表とか）（B） 手芸・焼き物とか得意なものを展示、販売する、バザーを開く（C）
運営協力・ ボランティア等	<ul style="list-style-type: none"> 必要とする労力を提供する（A） ボランティア活動、花を植える、美化活動に協力（B） 地域には色々な人材が居るので、それらを活用する計画を進める（C）
周知・PR	<ul style="list-style-type: none"> 津久井の良さを知ってもらうための動画などを作って知らない人に「知ってもらう」（A） 津久井のPR、施設の特徴を広める（B） 学生で地域のPRを行って、映えスポットを見つけることで若い人にも興味を持ってもらう（C）

●参加者全員からのひとこと



生活している上では気づかないことを深く知れたので、すごく楽しく、勉強になりました



若い人の声を聴きながら、これからの津久井のまちづくりに貢献していきたいと思います

ワークショップに参加し、色々考えていかなければいけないと思うようになりました

自分の住んでいる街で何か新しい発見があったら覚えておきたいなと思いました

色々なジャンルの中で私も知らなかったなということを色々思わせていただきました

私が一番印象に残っているのは中野に水の通り道があるのを知ったことで、本当に勉強になりました

津久井に住んでいるけど知らなかった歴史などを知ることができ、楽しい時間を過ごせました

実現に向けてちょっといい形でモデルが見えてきたかなと思いました

これを機に、津久井のことをもっとたくさん知りたいなと思いました



自分にできることを何か少しでもやっていたらと思いました

色々な方が集まり意見を出し合ったことで、非常に効果的なものを感じています

皆さんが親しみやすい、誰でも気軽に参加できる施設になれば良いと思いました



子どもたちが住みたいと思えるような、暮らしやすい、そして誇りに思えるような場所にしてほしいと思います。

大学生の発表を見て、今まで自分が描いていた津久井を超え、すごく夢があると思いました

年代も様々な方たちの意見を聞けるという機会がなかなかなく、こうした機会を設けていただけて良かったと思います



世代を超えてワークショップをする中で、歴史を知り、そして将来性も色々感じることができました

行政と地域が協力してやっていけたら良いと思いました

新しい庁舎が完成するまで生きていたいと思います

是非、津久井高校と連携しながら色々なことが出来ればと思いました

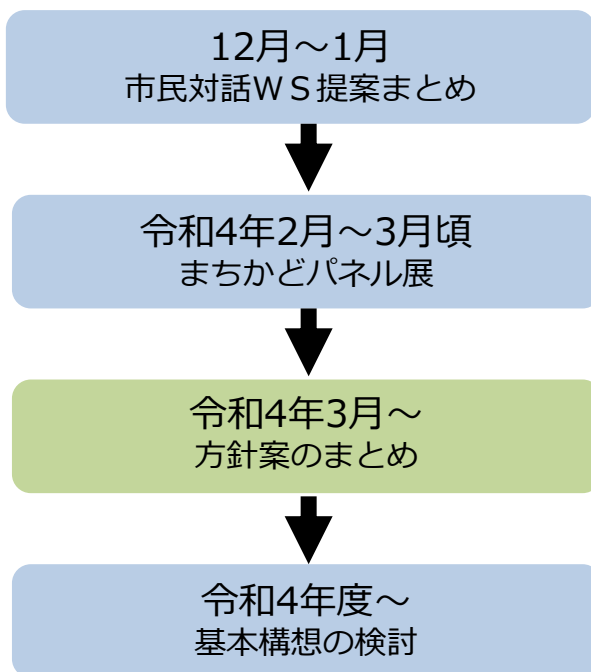


●本村市長からのあいさつ

- ・全4回にわたりご参加いただいた地域の皆さま、そして、ワークショップを支えてくださった志村教授をはじめ芝浦工業大学の皆さま、本当にありがとうございました。
- ・皆さま一人一人の地域に対する想いや熱意を感じることができた温かみのあるワークショップだったと思います。地域の方がわくわくし、誇りを持てるような地域づくりに資する多くのご意見をいただきました。皆さまのご意見をしっかりと受け止め、今後のまちづくりに取り組んでまいります。
- ・津久井という言葉は地域の皆さまだけでなく、市民にとっても誇りある言葉だと思っております。津久井地域の豊かな自然や文化・歴史をしっかりと次の世代につないでいくことが私たちの使命です。
- ・公共施設の老朽化が全国的な課題となっておりますが、本市では行財政構造改革を進めながら、令和11年度には、津久井総合事務所を中心にこのまちが新しくなるよう、皆さんと一緒にまちづくりを進めてまいります。



●今後の予定



記念撮影をしました



ワークショップの最後に各回の成果物・学生資料を背景に参加者の皆さん、本村市長、芝浦工業大学の志村教授、学生の皆さんで記念撮影を行いました。

●ファシリテーターのまとめ

- ・今回は「施設」「お金」「自分」の3つの視点で考えてもらいました。その中でも「自分たちにできること」というのはちょっとプレッシャーがかかるテーマでしたけど、まずは津久井、中野の魅力をアピールしていくところから実はみなさん自信があるんですよ。それがすごく感じられて、一つの原動力になるのかなと思いました。
- ・今回のワークショップでは、総合事務所を中心とした公共施設は、単なる事務的な窓口になるのではなく、ふらっと立ち寄りたくなる、里山の風景に調和して無理のない適正な規模と機能でシェアする、災害時の対応などといった重要なポイントが出ていたと思いますし、今後、市として考えていく基本的な方向性は明確になったという気がします。
- ・公共施設の再編というのは長期間で何年もかかりますが、ぜひこのワークショップの成果を良い形で実現していただけたらと思います。皆さま本当にありがとうございました。

～ファシリテーターご紹介～



志村 秀明教授

1968年東京都生まれ
芝浦工業大学
建築学部建築学科教授
博士（工学）、一級建築士
専門分野：まちづくり、市民参加、都市計画